

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

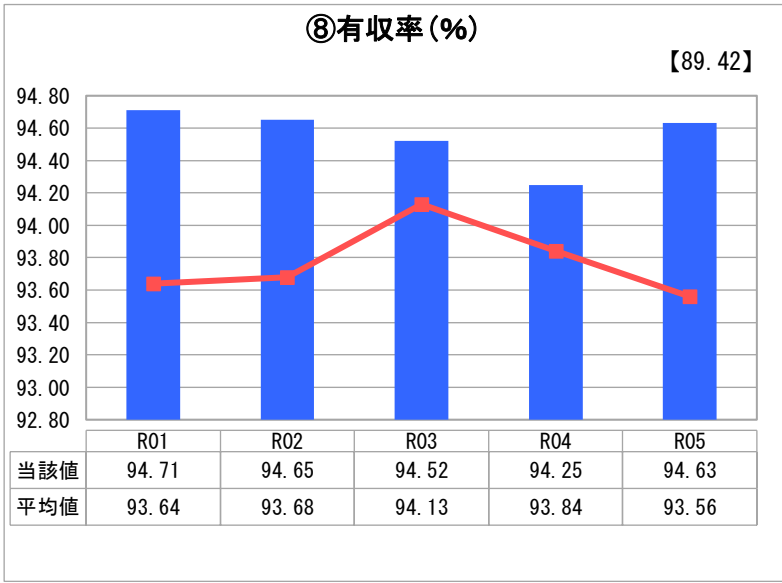
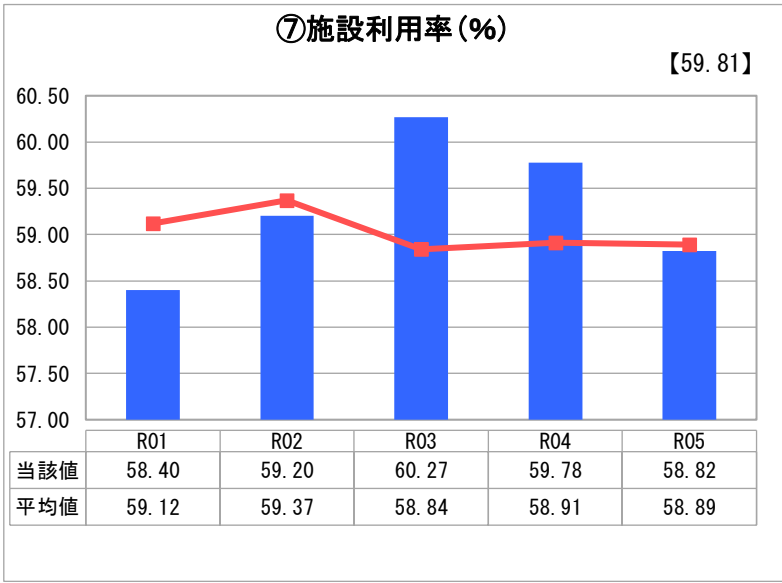
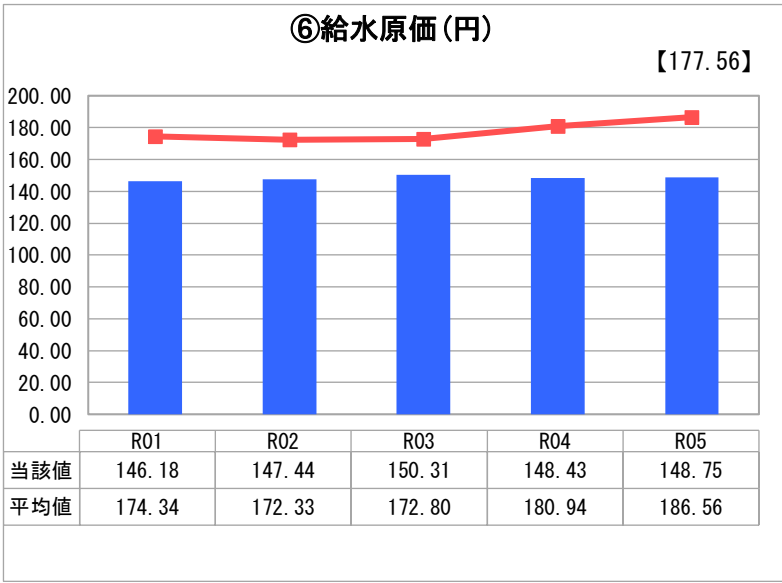
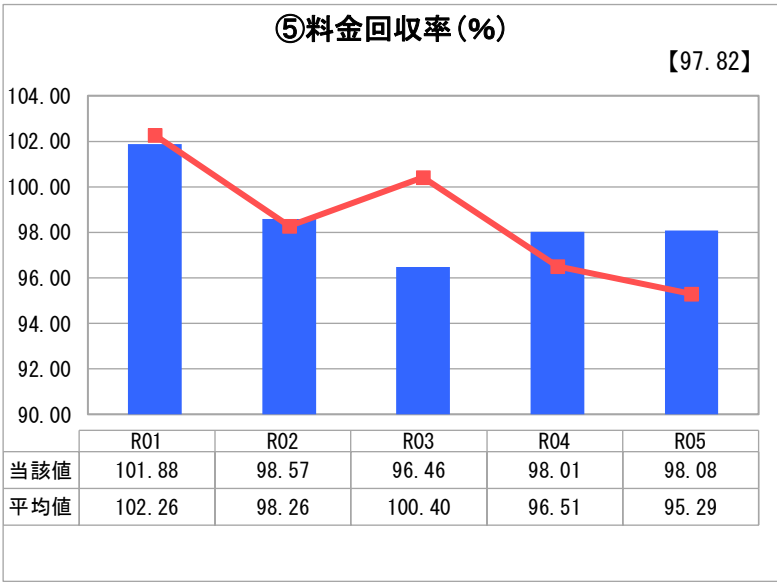
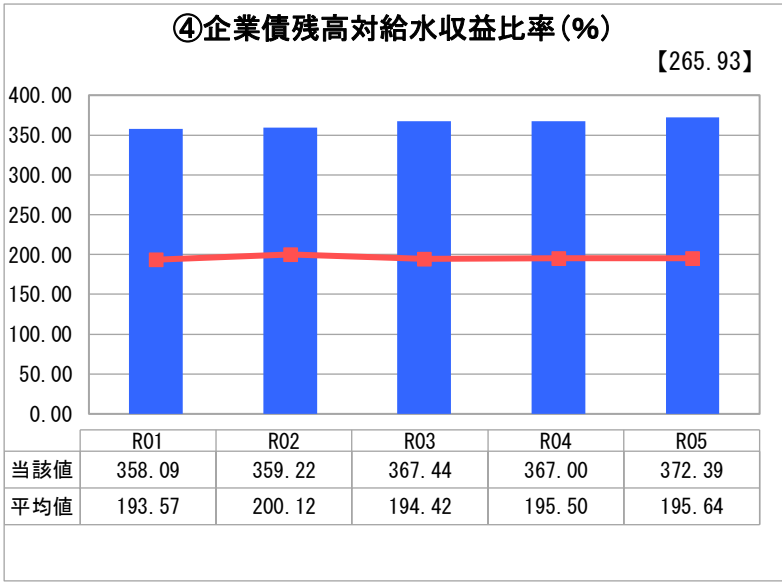
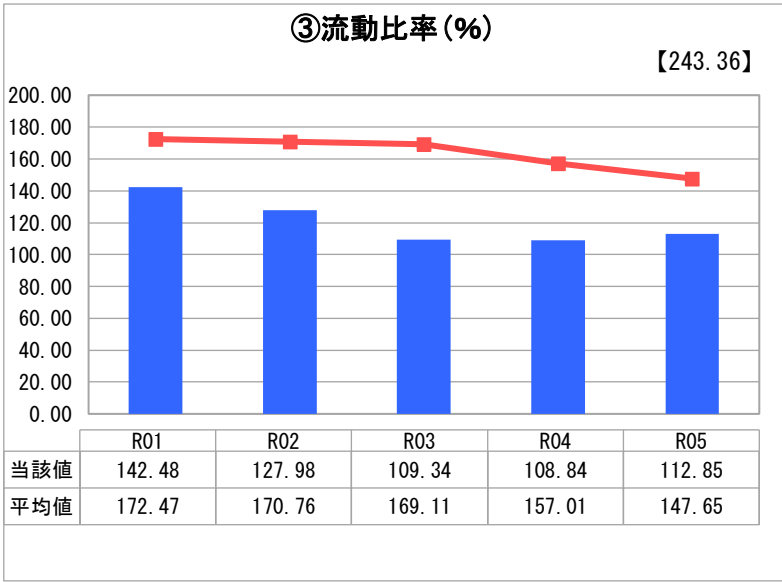
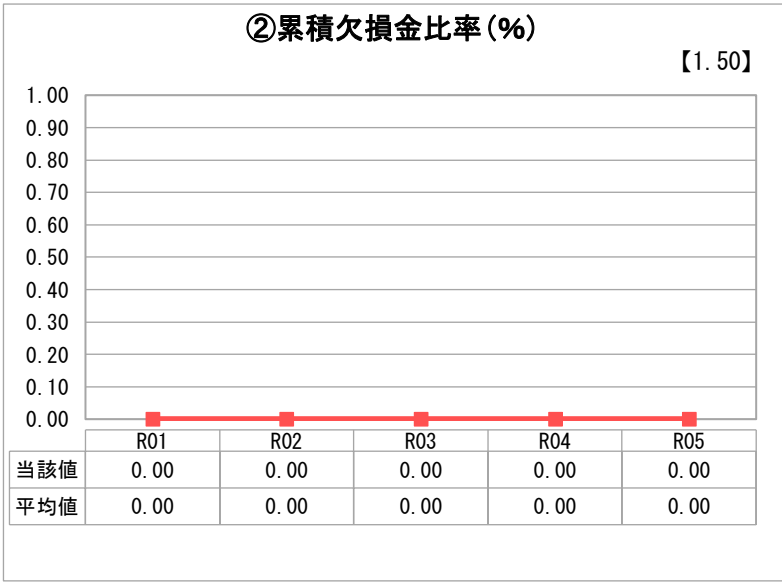
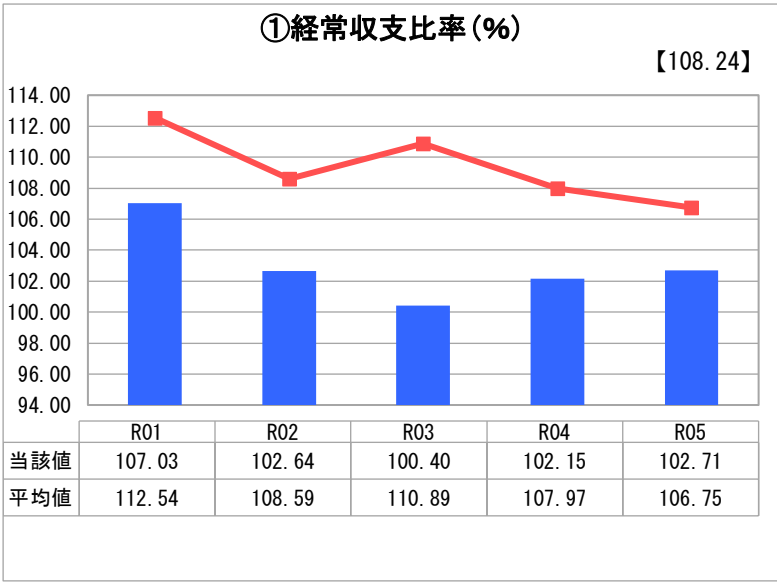
広島県 広島市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	政令市等	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	64.78	98.07	2,398	

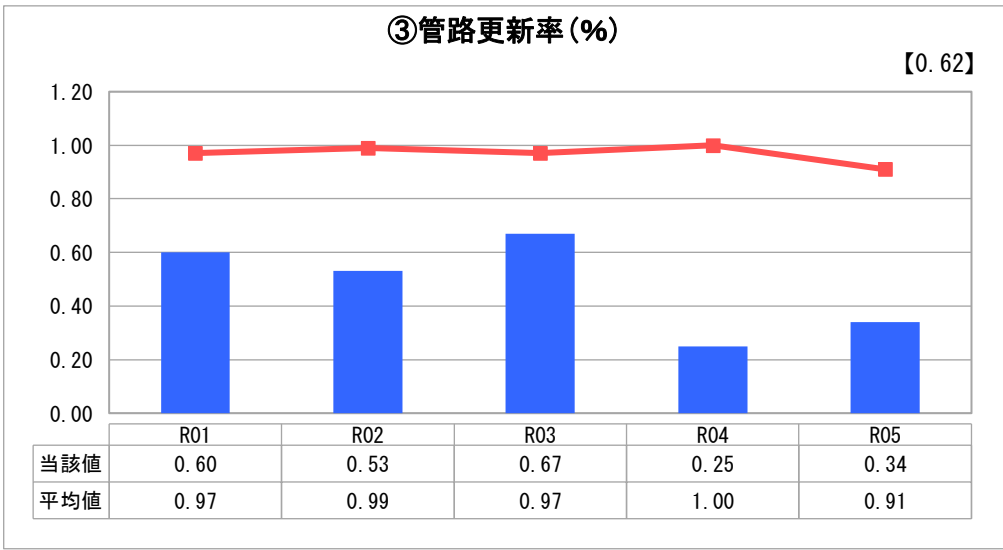
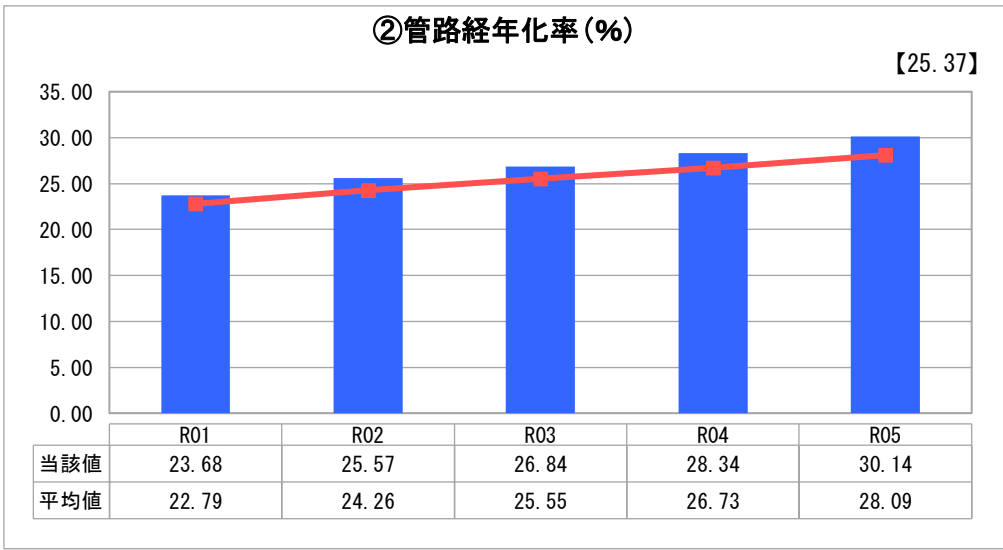
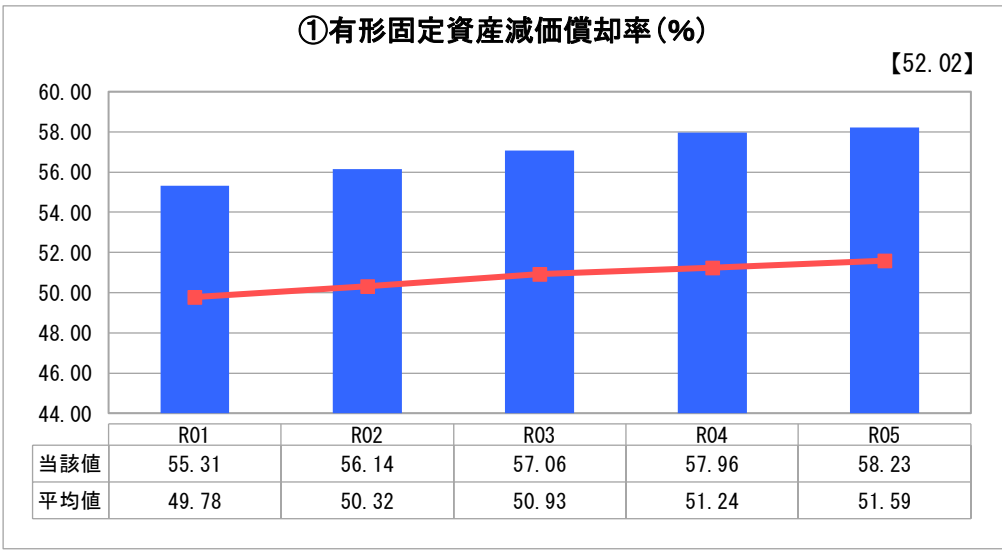
人口（人）	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,178,773	906.69	1,300.08
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,216,402	273.42	4,448.84

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率  
類似団体平均値を下回っているものの100%を超えており、単年度収支は黒字で推移しています。
- ②累積欠損金比率  
欠損金を生じていないため0%で推移しています。
- ③流動比率  
類似団体平均値を下回っているものの100%を超えており、短期的な支払能力は確保できています。
- ④企業債残高対給水収益比率  
企業債残高の減少により低下傾向にありましたが、令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症対策の影響による給水収益の減少などにより上昇傾向にあります。
- ⑤料金回収率  
令和元年度までは100%を超える水準で推移していましたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症対策の影響により料金単価の高い業務用の給水収益が大きく減少したこと等により100%を下回っています。
- ⑥給水原価  
類似団体平均値を下回る水準にあり、おおむね横ばいで推移しています。
- ⑦施設利用率  
配水量の減少に伴い低下しています。
- ⑧有収率  
近年はおおむね横ばいで推移しています。

## 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率  
施設の長寿命化を進めていることもあり、年々上昇傾向にあります。今後もこうした傾向が続く見込みです。
- ②管路経年化率  
昭和40年代以降、市域の拡大等に対応するため、集中的に管路整備を進めてきたことから、今後も上昇する見込みです。
- ③管路更新率  
類似団体平均値を下回る水準にありますが、管路更新に当たっては、漏水事故の発生状況や管種及び埋設土壌等を勘案し、優先順位を見極めながら計画的に実施しています。

## 全体総括

水道事業運営に当たっては、主要施策や健全経営推進のための取組を織り込んだ中期経営計画を策定し、基幹施設の更新・改良等を図りつつ、経営の効率化や企業債残高の抑制などに努めています。

経営面では、経常損益は黒字を維持していますが、有利子負債である企業債残高を抑制し、引き続き、財務体質の強化に取り組んでいく必要があります。

施設面では、水道施設維持保全計画を策定し、施設の長寿命化により更新需要の抑制及び平準化を図っています。とりわけ管路については、漏水事故の発生状況や管種及び埋設土壌等を勘案しながら、計画的な更新等を実施しています。

本市水道事業の経営戦略として位置付けた広島市水道ビジョン及び中期経営計画に基づき、これまで以上に中長期的な視点に立った計画的な経営を推進し健全経営を維持していきます。